鶴見　久美子 議員

聴覚情報処理障害（ＡＰＤ）、聞き取り困難症（ＬｉＤ）について

問　ＡＰＤ、ＬｉＤとは、日常生活のさまざまな場面で聞こえづらさが起きることである。主な症状は、聞き返しや聞き誤りが多い、雑音が多い場所で聞き取りが難しい、口頭で言われたことを忘れたり理解しにくい、早口や小さい声が聞き取りにくいなどがある。難聴と似た症状があり、聴力検査でも異常がなく、難聴と誤診されやすい。認知度が低く、対応している病院も少ないため、学校や職場での理解や協力が必要である。①ＡＰＤ、ＬｉＤについて市民への周知と今後の予定について、②小中学校での相談体制や配慮について、③市職員への相談体制や配慮について伺う。

答　①まだ市民の認知や理解が十分ではないため、周知内容や方法については工夫が必要であると考えている。議員紹介のＬｉＤ／ＡＰＤマークおよびパンフレットなどを参考にし、市ホームページなどを通じて、市民への情報提供の充実を図るとともに、関係機関とも連携して周知を進めたい。②特別な配慮を要する児童生徒の対応については、学級担任が本人や保護者と面談し、学校ではどのような支援や配慮ができるかを話し合っている。また、各学校の特別支援教育コーディネーターを中心として、児童生徒に応じた支援や配慮を検討・判断し、全職員で共通理解を図り、きめ細やかな対応をしている。③職員が心身の健康や働き方に関して相談できる窓口として、産業医や外部委託の窓口等がある。今後も各種相談体制の周知を進め、個別事案に応じたきめ細やかな対応や支援に努めていく。

LiD／APD マーク

高橋　秀彰 議員

「こども誰でも通園制度」の円滑な実施について

問　「こども誰でも通園制度」は、子どもの良質な成育環境を整備するとともに、未就園児の親の育児負担軽減などを目的としている。来年の制度スタートに向け、保育人材の確保など、制度の円滑な実施のため、遺漏のない取り組みが必要と考えるがどうか。

答　保育士の確保は、就活応援セミナーを民間施設と共同で毎年行い、市内の保育現場を知ってもらう機会を設けている。経験豊富な保育士が復職する場合、県の潜在保育士就職準備金貸付制度を案内し、活用を促している。

フェーズフリーの推進について

問　フェーズフリーとは、災害の備えを特別なものと捉えるのではなく、日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方である。例えば、給電可能な車両やトイレトラック等の導入、また、フェーズフリー教育の推進など、フェーズフリー防災の推進が必要と考えるがどうか。

答　給電機能を有する公用車の配備は、使用用途や災害時の活用も考慮し検討する。トイレトラックは、準備の手間が少ない利点があり、導入の可能性について調査検討する。学校生活においてフェーズフリーの考え方を意識することは、子どもたちの防災意識を高めることにつながる。市の災害対策を迅速に行うためにも、この視点を持ち、災害時を見据えた業務遂行を職員一人一人が図っていくことが重要である。今後も平時から危機意識を持って備えることで市民の安心安全を担っていく。